

平成28年2月24日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

教育民生常任委員会委員長 大坪涼子

平成27年度 管外行政視察報告

教育民生常任委員会の管外行政視察の概要は、下記のとおりでありますので報告します。

記

- 1 期 間 平成27年11月 9日（月）から
平成27年11月11日（水）まで

- 2 行政視察地 ①愛知県一宮市 一宮市立中央図書館
及び研修項目 ・中央図書館について
②京都府京都市
・認知症対策について

- 3 出席委員等 副委員長 鵜浦昌也
委員 蒲生 哲 委員 丹野紀雄
委員 菅野 稔 委員 及川修一
(委員長 大坪涼子 欠席)
随 行 主任 佐々木 真理

- 4 行政視察概要 別紙報告書のとおり

教育民生常任委員会行政視察報告

教育民生常任委員会は、愛知県一宮市の一宮市立中央図書館と京都府京都市において行政視察を行いました。

○一宮市立中央図書館

中央図書館のある駅前ビル（iビル）は、一宮市中心部のJR東海道本線「尾張一宮駅」と名鉄名古屋本線「名鉄一宮駅」にコンコースで連結された7階建ての施設で、平成24年11月に建設（総工費約64億5千万円）されました。

以前の駅前ビルが老朽化したことから、市民の要望を受けて建て替えられ、図書館のほか、中央子育て支援センター、市民活動支援センター、ビジネス支援センター、観光案内所、大ホール、貸会議室、商業施設、交番、駐車場（147台、利用者は1時間無料）、駐輪場（162台、利用者は2時間無料）などで構成されていました。

駅前という立地をいかし、市民の交流や文化拠点として集客を図ろうと整備。「市民活動・文化活動」「歴史・文化の伝承」「新たな市民文化活動の創造」などを目的に、多様な施設機能が集約された施設でした。

蔵書数が約46万点という図書館は3フロアあり、5階は児童や親子向けフロアで、6階と7階は一般利用者向けとするなど、利用者の目的にあった機能的な配置となっていました。

児童や親子向けフロアは、絵本、紙芝居、児童書が取り揃えてあり、読み聞かせをする「おはなしのへや」のほか、靴を脱いで絵本を楽しむ「じゅうたんコーナー」がありました。

本棚の段数は子どもの目線に配慮され、フロアの配色にも優しさと楽しさが取り入れられ、子どもたちが伸び伸びと本に親しめる空間を創出。ボランティアによる定期的な読み聞かせ会などのイベントも開催されているとのことでした。

一般利用者向けのメインとなる6階は、一般書や視聴覚資料、新聞、雑誌などがあるフロアで、「大活字本・点字本コーナー」「ティーンズコーナー」も設置。特に「新聞・雑誌コーナー」の席はゆっくりと窓の外を眺めながら読むことができ、利用者から好評でした。

7階は一般書や参考図書、郷土資料のあるフロアで、各種研究や調査に役立つ資料が取り揃えてありました。このほか、「ビジネス支援コーナー」や同市の地場産業であ

る繊維産業に関する資料を揃えた「せんいコーナー」など、利用しやすい展示の工夫が見られました。

貸出し用の本にはI Cタグが貼付され、自動貸出機や自動化書庫の導入により貸出しにかかる時間を短縮。本の紛失防止にもなっているとのことでした。

学習室やインターネット席、AVブース席なども設けられ、放課後時には160席ある学習室が高校生で溢れる状況で、24席のAVブースは蔵書のDVDを楽しむ市民が多く利用していました。

運営にあたっては、カウンター業務の一部を公募型プロポーザルで選定した業者(株)図書館流通センター)に年間約6億3千万円で委託。市職員は館長はじめ9人で、業者の職員は約60人とのことでした。

今後、陸前高田市も図書館を新たに整備することになっていますが、さまざまな施設を合わせた複合型の施設にすることによるメリットを学ぶことができました。今後の整備に向け大いに参考となる視察でした。

○京都市

京都市は、高齢化率が26%ほどながら認知症対策の先進地ということで、市役所を訪れて担当者から各種施策についての説明を受けました。

同市の認知症に対する施策として▽認知症あんしん京(みやこ)づくり推進事業▽認知症介護研修等事業▽認知症地域支援推進員の配置▽徘徊高齢者あんしんサービス事業▽～地域で気づき・つなぎ・支える～認知症総合支援事業▽京都市長寿すこやかセンターの6事業を展開。

具体的には、認知症に関する正しい理解の普及をはじめ、認知症高齢者や家族が地域社会から孤立しないように見守る「認知症あんしんサポーター」講座を実施し、介護従事職員に対する研修なども行っていました。

認知症になっても住み慣れた地域で生活してもらうためには、医療機関や介護サービスが連携したネットワークによる効果的な支援が必要で、連携を図るためのコーディネイト役となる地域支援推進員を本庁(長寿福祉課)に配置しているとのことでした。

認知症高齢者が徘徊するなどして行方不明になった時、GPS機能を利用して早期に発見できるよう小型発信機を貸し出すサービスを実施。年間の問い合わせが300件ほどあり、現在70件ほどが利用しているとのことでした。

認知症への対応については、早期発見と早期相談、早期診断が大切ととらえ、医療や介護などの団体に構成する協議体の助言を得て作成したガイドブックを配布しているほか、フォーラムを開催するなど、医療と介護の連携を進める総合的な事業を実施しているとのことでした。

また、若年性認知症を含む認知症の一般相談や専門相談にも対応しているほか、交流会を通じた本人や介護家族への支援、専門職向け研修や市民講座等を開催するなど、医療と介護はもちろん、関係機関と行政が一体となり、地域ぐるみで高齢者の暮らしを支援している取り組みについて知ることができました。

今後もさらに高齢化が進むことが懸念される陸前高田市。認知症高齢者をはじめ、誰もが笑顔で生き生きと過ごせる健康長寿のまちづくりを進めるためにも、認知症対策を講じていく必要性について学ぶ視察となりました。